

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771200304		
法人名	(有)お元気ですかショップ山下		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	香川県小豆郡小豆島町西村甲2121-1		
自己評価作成日	令和 5 年 7 月 27 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様が自分らしく、穏やかに生活できるように職員は常に利用者様の話に耳を傾け、笑顔で接する事を心掛けています。
・家訓、理念のもと家庭的な雰囲気の中で職員は利用者様と共に生活し、ゆっくりと関わりを持つようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771200304-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 8 月 7 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関の扉を開けると【理念】ではなく、【家訓】が掲示されていた。管理者に聞くと、「形だけではない家庭的な雰囲気を大切にして介護に臨んでいる」からだと答えてくれた。前回の課題を真摯に受け止めて、運営推進会議では、通常のメンバーだけでなく、町議会議員、警察署、青年部部長、神社の宮司さんなど、毎回新しい参加者を迎え入れている。対面への移行も早くから復活し、多くの意見が集まってきている。医療連携加算により、常駐の看護師が増えて、手厚い介護ができるようになり、家族や利用者の安心に繋がった。外国人技能実習生の聞き取りでは、「初めての介護の仕事だが、優しく教えてくれる。」「利用者からもありがとうや感謝しているの言葉が聞けて励みとなっている。」「今後も日本で暮らして仕事を続けたい」と自信を持って答えてくれた。また、利用者からは、「ここは家のように、みんながいるので寂しくない。ずっとここにいたい。」との声が聞けた。評価当日の天候は雨だったが、施設内の職員や利用者は笑顔で晴れやかに過ごしていて、家訓にもある【家庭的な雰囲気】だった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットのリビングには家訓と理念を掲示し、職員は家訓や理念に対して各自が目標を持ち、実践できるように取り組んでいる。	家庭的な雰囲気を出したいので、【理念】ではなく【家訓】としている。玄関と各ユニットのリビングに掲示することで、職員の目に触れられるようにしている。家訓にもある「家庭的な雰囲気」を大切にしており、アットホームな施設を目指している。	良い家訓なので、さらに職員に浸透させてみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだコロナ禍の影響で中止しているが、年に一度の納涼祭ではご近所の方を招いて賑やかで楽しい一時を家族様と一緒に過ごされている。	社長・管理者が消防団に所属していて、地域に密着した関係性が築けている。町内会には加入していて、町内会長や民生委員とは、運営推進会議を通して、やり取りができています。民生委員からオーブの差し入れがあり、食事に提供された。利用者が散歩する際には、近隣の方と挨拶を交わす関係もできています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、ホームでの様子や認知症についての話をし理解を深めてもらっている。コロナ禍で書類開催が多かったが、昨年夏より通常開催に戻り会議上で相談を受けた場合は専門的な知識を活かし、認知症に関して分かりやすくアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではこれまでも地域や家族代表の方、町職員の方に参加して頂いていたが昨年秋より新たに毎回ゲスト委員の方を招き、ホームの活動状況や取り組み状況の報告をしている。ゲスト委員の方も含め、参加者からの意見や助言をサービスの向上に活かしている。	高齢者福祉課、民生委員、町内会長、代表・管理者、家族が参加している。前回の評価結果を受けて、警察、宮司、町議会議員の参加に至った。1年前から対面式で開催することができている。活動、勉強会、事故報告、面会について確認を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも、困難事例や日常的な介護の実践において、分からない事があれば町役場の担当者の方に相談し、アドバイスを頂いたりしている。	管理者が窓口となっている。コロナ禍では、検査キットやパーテーションなどの対策グッズを頂いた。書類を提出する際には、役場に直接出向くことで、face to face の関係が築けている。社長や管理者が中心となり、地域の方に運営推進会議の参加を促したことで、地域の輪が広がった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に玄関の施錠は夜間のみであるが、まだコロナ禍の影響があり現在も暫定的に日中の施錠を継続している。毎月の職員会議では、身体拘束廃止委員会が拘束について話をし職員全体で話し合い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	毎月の職員会議で、身体拘束について考える場を設けている。管理者が中心となり、身体拘束に関する勉強会も行っている。研修の題材は、インターネットから事例を取り上げて、話し合いを行っている。スピーチロックについても細心の注意を払ってケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で虐待をしないケアの実践を確認する機会をもつようになっているが、コロナ禍も落ち着いてきているので状況を見て外部での研修会等に参加し、学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、話し合いや学ぶ機会は少ないので勉強会などで学ぶ機会を持つようしていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、ご家族の不安な思いや不明な点が残らない様にホームでの生活について詳しくお話しし、理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望等は日々の生活の中での会話のやり取りで汲み取るようになっている。ご家族には電話連絡時等に意見や要望などをお聞きし、運営推進会議等で話し、意見を頂いている。	面会は予約制で短時間で実施している。面会時や電話連絡の際に、意見や要望を聞くようになっている。ナイーブな話の場合には、相手の気持ちを考えた上で、話をするようになっている。昔馴染みの知り合いの方が多く、管理者に直接連絡がくるので、連携が取りやすい。毎月発行している「あおぞら新聞」が好評。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や、毎朝の申し送り、連絡ノート等を通じて職員の意見や提案を把握し、管理者会等で検討し運営に反映させるようになっている。	職員の意見は、管理者と主任が中心となって聴取している。利用者に対しての介助方法の意見が多い。利用者の様態に応じて、低反発マットやエアマットを導入した。事務所や台所にメモ書きを貼ることで、職員間の意思疎通が図れている。職員の有給休暇の取得もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自己評価を実施したり面談の場を設け、日頃の実績を処遇に反映し、要望の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナが5類相当に移行したのに伴い、事業所外の研修にも少しずつ参加している。月一回の勉強会では担当職員がテーマを決め、それについての取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが5類相当に移行したのに伴い、事業所外の研修にも少しずつ参加している。情報交換や交流を通じ事業所内での研修報告や勉強会などで全体の職員に伝え、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学(現在はコロナで施設内に入れないので写真を見て貰っている)や面接を行いご本人の状態や生活状況、ご本人やご家族の意見や希望を伺い、職員全体で情報を共有し、入居後安心して暮らせる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接等でご家族の不安や要望等を詳しく聞き、入居後もご家族とはなす機会を多くし、安心して生活できる様一緒に関われる関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学や面接、契約時にご家族から話を聞き、状態を確認して必要な支援が行えるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事や役割としてできる事を見つけ、職員や他の利用者の方と一緒にいる事で生きがいを見つけ、生き生きと暮らして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の青空新聞発行や電話連絡等で日々の生活の様子を報告し、ご本人らしい生活が出来る様家族と共に考え、相談できる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	春には入居者様地元で馴染みのあるお寺に桜見学に行ったりするなど、少しずつ外出の機会を増やしていった。今後、改めて地域資源の見直しを行い、出来るだけ入居者様になじみの深い場所や人とのつながりを持てるようにしたい。	コロナが終焉しつつあるので、家族だけでなく、友達の訪問も増えた。通院の際に、少し遠回りをして、桜の花を見に行ったり、家の近所の馴染みの場所を通ったりしている。施設前の防波堤へ出掛けたり、さくらんぼの木を見たりして過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士、近くの席に座って頂いて利用者さん同士が会話を楽しんだり、職員が常に利用者様とのコミュニケーションを心掛け、良好な関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、そのご家族に会えば状況をお聞きしている。他の施設等に入居が決まった場合はご本人の情報を詳しく伝え、その後も必要に応じて連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日常の会話やご家族との話し合いで利用者様の希望を出来るだけ聞くよう心掛けています。意思疎通が困難な利用者様に対しては顔色や表情を観察し、思いを理解する様努めている。	職員会議や申し送り時に、意見交換をしている。おやつの際に、コーヒーが飲みたいとの要望があり、コーヒーとフレンチトーストを提供したら喜んで頂けた。利用者からの聞き取りでは、「この施設は居心地がいいです」との声が聞けた。入居してすぐの方には、家族の意見も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から自宅での生活状況を詳しく伺い、これまでの環境と出来るだけ変わらないように使い慣れた馴染みの家具や生活用品を持ってきて頂くなどし、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室でテレビを観たい方や食後は居室で休みたい方など、個々に応じて生活が出来る様に配慮している。また、一人ひとりの状態に変化があれば看護師に細かく伝え職員間でも共有し、職場全体で状態が把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い、ご本人やご家族の意向を元に現状のニーズに合った介護計画を作成している。利用者様の状況に変化があった場合はその都度見直しを行い変更している。	介護計画は、何もなければ3ヶ月毎に見直している。目標は短期3ヶ月、長期6ヶ月とし、生活の中で解決すべき課題を明確にして、プランを作成している。モニタリングも3ヶ月に1回実施している。生活の様子を細かく把握することで、よりよい介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態の変化や気づきには個別の介護記録に記入し、職員全体が共有している。毎日の申し送りや連絡ノートを活用し、情報の共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて対応できるよう、カンファレンスや朝の申し送り時のミーティングなどの機会に支援方法について話し合い、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で中止になっているが、音楽療法や子ども園の園児の慰問、二ヶ月に一度地元のボランティアの方とのカラオケ交流会など一緒に行っている。商工会のイベントやふるさと祭りなど、希望に応じて参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は近くにあり、緊急時にはすぐに受診できる体制である。希望があれば今まで受診していた医療機関を受診している。必要時には家族様と同行してもらい付き添いをしてもらっている。 (※ カッコ内注釈削除)	かかりつけ医は、定期受診をしている。緊急時には24時間対応して頂け、看護師が近隣に住んでいるので素早い対応が出来ている。元のかかりつけ医を受診している方もいる。基本は職員対応だが、家族が連れて行く場合もある。歯科は、必要時に対応して頂ける。医療連携加算を取ったことで、手厚い医療が受けられるようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員に毎朝バイタル状況や体調の変化を伝え、体調管理を行っている。体調の変化や状態が悪くなった時は看護師に相談して指示を仰ぎ、共に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者様について出来るだけ詳細なサマリーを作成して情報を伝え、ご家族や病院関係者と連絡を取り合い退院に向けての計画を相談しながら退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合など、緊急時の対応や延命に関しての意思確認をDNARプロトコルに則ってご家族に提出して頂いている。終末期には出来る限りのケアを続けられるよう、ご家族や医療関係者に協力を得ながら対応している。	最終的には特養や入院される方がほとんどだが、本人・家族と相談した上で、施設でできる範囲で看取りを実施している。以前は、「急変時における延命等の意思確認書及び同意書」にて確認をしていたが、現在は、緊急時の対応や延命に関しての意思をDNARプロトコルにて確認し、同意書にサインをして頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、常時確認できる場所に掲示したり、介護記録にも綴じて的確に対応できるようにしている。近々救急救命の講習会に参加の予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しており、年に1回は消防立ち合いにて訓練を行っている。今年の訓練では外国人技能実習生にメインで動いてもらった。訓練後は反省会にて話し合い、職員間に周知徹底するようにしている。	夜間想定で消防の立ち合いの下、火災訓練を実施。外国人技能実習生を中心に訓練を実施した。管理者が課題や反省点を確認して、まとめたものを台所に貼ることで、意識付けができています。避難経路は廊下、ハザードマップは台所、緊急連絡網はリビングと事務所に掲示している。備蓄は、併設する施設で3～4日分を一括管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権やプライバシーを尊重し、言葉遣いも丁寧に対応できるよう心掛け努力している。	呼称は苗字に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る際には、ノックをしたり、そっと様子を見てから入室するようにしている。排泄失敗時には、さりげない対応で、バスタオルを掛けることで自尊心を傷つけないようにしている。言葉遣いも馴れ馴れしくならないように気を付けている。	プライバシーや尊厳について、さらに学びを深めてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は毎朝一人ひとりに挨拶と声掛けをし、積極的にコミュニケーションを図ることで利用者様の思いや希望を把握し、ご本人の希望や思いに沿ったケアが出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格や生活のリズムを大切にし、個々に合った生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部の方はご自分の好きな服装選びをされるので、そのお手伝いをしている。ご自分でできない方は職員が季節に合った服装を選んでる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや机拭き、食器拭きなど自分の役割としてできる事はお手伝いして頂いている。毎月のおやつ作りも利用者様が中心となり手作りのおやつを作ってみんなで食べる時間を設けている。	食事は3食手作り。評価当日の食事は、会話が盛り上がり楽しい雰囲気です。毎月、ユニット合同でおやつ作りを開催して、どら焼きやカップケーキを作った。夏には、素麺やうなぎが好評だった。できる方には、下ごしらえや食器拭きを手伝って頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめに水分補給をして頂くよう声掛けをしている。食事でもキサー食や刻み食など一人ひとりに合った食事形態で提供している。また、毎食の食事量を記録し状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯洗浄を行っている。自立されている方が多いが、出来ない部分は職員が介助し、夜間は義歯を外して消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた介助を行っている。介護度が高い方には定期的にパット交換を行い、清潔保持を心掛けている。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。排泄パターンは介護記録に記入しているので、スムーズな誘導ができています。夜間のみ、おむつで過ごしていた方が、リハビリに改善された事例もある。布パンツで過ごしている方も数名いる。排泄失敗時には、「ちょっと確認させて下さい」とさりげなく声をかけ、自尊心を傷つけないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や運動レクリエーションを取り入れ、便秘予防を行っている。便秘気味の利用者様には医師と相談し下剤を服用してもらい、状態に合わせて薬の調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状態に合わせた入浴方法でゆっくりと入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	週2～3回の提供で、湯船に浸かる方が約半数。リフト浴も可能で、入浴中には昔話に花を咲かせることもある。季節湯としてゆず湯の提供や気分を変えるため、入浴剤を使用することもある。流れ作業にならないように、入浴時間は平均30分程度取っている。同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ離床し、リビングで活動的に過ごして頂いている。一人ひとりの体調に合わせて食後などはゆっくりと横になって頂いたり、その方のペースに合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録や服薬中の薬の内容は一人ひとりのファイルに保管し、職員が確認できるようにしている。症状の変化時は医師に報告、相談し変更がある時は職員全員が申し送りやファイルにて周知し、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	電話連絡時やカンファレンス等で今までの自宅での生活の様子をお聞きし、一人ひとりに合った役割を持ち、家事などに参加して頂く事で張り合いのある生活を遅れる様、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所を散歩したりドライブに出かけたり、年に一度は遠足を企画し外食を楽しむ等、楽しい外出ができる様支援しているが、コロナ禍の影響でほとんど外出が出来ていなかった。現在はコロナの5類移行に伴い、少しずつ外出の機会が増えてきている。	馴染みあるお寺に桜を見に行ったり、通院の際に、少し遠回りをして、家の近所を通ったりしている。秋には、寒霞渓への紅葉を企画している。廃校になった学校で開催される、こいのぼりの飾りつけを見に行った。毎日のDVDを観ながら体操をすることで、ADL機能の維持・向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	まだコロナの影響もあり出来ていないが、ご自分でお金の管理が出来る方は少人数ですが買い物などの時に好きな物を買って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があればご家族に電話したり、ご家族から電話があれば取り次ぐようにしている。手紙や持ち物が届いたら直接お渡しするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなどに季節に応じた模様替えをしたり居心地よく生活して頂けるよう毎日こまめに掃除を行い、清潔感のある空間にしている。	リビングには季節に応じたタペストリーや、利用者の笑顔の写真が飾られている。リビングでは、新聞を読んだり、パズルを楽しむ利用者もいる。廊下は広く、利用者が作成した絵手紙や、刺し子の作品が飾られている。窓からは瀬戸内の海が見え、施設の前にはオリーブ園が広がり、自然豊かな環境となっている。近くにあるさくらんぼを、取りに行ったりすることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う利用者様同士テーブルを囲みレクに参加したり話をしたり、思い思いに過ごせるよう工夫している。	タ	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ自宅で使っていた馴染みのあるものを持ってきていただき、入居後の生活の状態職員やご家族で相談し、現状に合った環境を整え、居心地よく過ごして頂けるよう支援している。	備え付けは、エアコン、時計、タンス。居室は広くて明るく、清潔な空間となっている。施設から誕生日にプレゼントされた写真付きのカードや家族の写真、利用者の作成した塗り絵が飾られていた。テレビを観て寛いだり、クロスワードパズルをしたりして過ごしている。携帯電話で家族との会話を楽しむ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室は大きく分かるように表示し、出来る限り自立して過ごせるよう環境を整え、リビングや居室には不要な物を置かない様危険防止に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771200304		
法人名	(有)お元気ですかショップ山下		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	香川県小豆郡小豆島町西村甲2121-1		
自己評価作成日	令和 5 年 7 月 27 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様が自分らしく、穏やかに生活できるように職員は常に利用者様の話に耳を傾け、笑顔で接する事を心掛けています。
・家訓、理念のもと家庭的な雰囲気の中で職員は利用者様と共に生活し、ゆっくりと関わりを持つようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3771200304-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 8 月 7 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関の扉を開けると【理念】ではなく、【家訓】が掲示されていた。管理者に聞くと、「形だけではない家庭的な雰囲気を大切にして介護に臨んでいる」からだと答えてくれた。前回の課題を真摯に受け止めて、運営推進会議では、通常のメンバーだけでなく、町議会議員、警察署、青年部部長、神社の宮司さんなど、毎回新しい参加者を迎え入れている。対面への移行も早くから復活し、多くの意見が集まってきている。医療連携加算により、常駐の看護師が増えて、手厚い介護ができるようになり、家族や利用者の安心に繋がった。外国人技能実習生の聞き取りでは、「初めての介護の仕事だが、優しく教えてくれる。」「利用者からもありがとうや感謝しているの言葉が聞けて励みとなっている。」「今後も日本で暮らして仕事を続けたい」と自信を持って答えてくれた。また、利用者からは、「ここは家のように、みんながいるので寂しくない。ずっとここにいたい。」との声が聞けた。評価当日の天候は雨だったが、施設内の職員や利用者は笑顔で晴れやかに過ごしていて、家訓にもある【家庭的な雰囲気】だった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットのリビングには家訓と理念を掲示し、職員は家訓や理念に対して各自が目標を持ち、実践できるように取り組んでいる。	家庭的な雰囲気を出したいので、【理念】ではなく【家訓】としている。玄関と各ユニットのリビングに掲示することで、職員の目に触れられるようにしている。家訓にもある「家庭的な雰囲気」を大切にしており、アットホームな施設を目指している。	良い家訓なので、さらに職員に浸透させてみてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだコロナ禍の影響で中止しているが、年に一度の納涼祭ではご近所の方を招いて賑やかで楽しい一時を家族様と一緒に過ごされている。	社長・管理者が消防団に所属していて、地域に密着した関係性が築けている。町内会には加入していて、町内会長や民生委員とは、運営推進会議を通して、やり取りができています。民生委員からオーブの差し入れがあり、食事に提供された。利用者が散歩する際には、近隣の方と挨拶を交わす関係もできています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に、ホームでの様子や認知症についての話をし理解を深めてもらっている。コロナ禍で書類開催が多かったが、昨年夏より通常開催に戻り会議上で相談を受けた場合は専門的な知識を活かし、認知症に関して分かりやすくアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではこれまでも地域や家族代表の方、町職員の方に参加して頂いていたが昨年秋より新たに毎回ゲスト委員の方を招き、ホームの活動状況や取り組み状況の報告をしている。ゲスト委員の方も含め、参加者からの意見や助言をサービスの向上に活かしている。	高齢者福祉課、民生委員、町内会長、代表・管理者、家族が参加している。前回の評価結果を受けて、警察、宮司、町議会議員の参加に至った。1年前から対面式で開催することができている。活動、勉強会、事故報告、面会について確認を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも、困難事例や日常的な介護の実践において、分からない事があれば町役場の担当者の方に相談し、アドバイスを頂いたりしている。	管理者が窓口となっている。コロナ禍では、検査キットやパーテーションなどの対策グッズを頂いた。書類を提出する際には、役場に直接出向くことで、face to face の関係が築けている。社長や管理者が中心となり、地域の方に運営推進会議の参加を促したことで、地域の輪が広がった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に玄関の施錠は夜間のみであるが、まだコロナ禍の影響があり現在も暫定的に日中の施錠を継続している。毎月の職員会議では、身体拘束廃止委員会が拘束について話をし職員全体で話し合い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	毎月の職員会議で、身体拘束について考える場を設けている。管理者が中心となり、身体拘束に関する勉強会も行っている。研修の題材は、インターネットから事例を取り上げて、話し合いを行っている。スピーチロックについても細心の注意を払ってケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で虐待をしないケアの実践を確認する機会をもつようになっているが、コロナ禍も落ち着いてきているので状況を見て外部での研修会等に参加し、学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、話し合いや学ぶ機会は少ないので勉強会などで学ぶ機会を持つようしていきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、ご家族の不安な思いや不明な点が残らない様にホームでの生活について詳しくお話しし、理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の要望等は日々の生活の中での会話のやり取りで汲み取るようにしている。ご家族には電話連絡時等に意見や要望などをお聞きし、運営推進会議等で話し、意見を頂いている。	面会は予約制で短時間で実施している。面会時や電話連絡の際に、意見や要望を聞くようにしている。ナイーブな話の場合には、相手の気持ちを考えた上で、話をするようにしている。昔馴染みの知り合いの方が多く、管理者に直接連絡がくるので、連携が取りやすい。毎月発行している「あおぞら新聞」が好評。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や、毎朝の申し送り、連絡ノート等を通じて職員の意見や提案を把握し、管理者会等で検討し運営に反映させるようにしている。	職員の意見は、管理者と主任が中心となって聴取している。利用者に対しての介助方法の意見が多い。利用者の様態に応じて、低反発マットやエアマットを導入した。事務所や台所にメモ書きを貼ることで、職員間の意思疎通が図れている。職員の有給休暇の取得もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自己評価を実施したり面談の場を設け、日頃の実績を処遇に反映し、要望の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナが5類相当に移行したのに伴い、事業所外の研修にも少しずつ参加している。月一回の勉強会では担当職員がテーマを決め、それについての取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが5類相当に移行したのに伴い、事業所外の研修にも少しずつ参加している。情報交換や交流を通じ事業所内での研修報告や勉強会などで全体の職員に伝え、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学(現在はコロナで施設内に入れないので写真を見て貰っている)や面接を行いご本人の状態や生活状況、ご本人やご家族の意見や希望を伺い、職員全体で情報を共有し、入居後安心して暮らせる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接等でご家族の不安や要望等を詳しく聞き、入居後もご家族とはなす機会を多くし、安心して生活できる様一緒に関われる関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学や面接、契約時にご家族から話を聞き、状態を確認して必要な支援が行えるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事や役割としてできる事を見つけ、職員や他の利用者の方と一緒に行事で生きがいを見つけ、生き生きと暮らして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の青空新聞発行や電話連絡等で日々の生活の様子を報告し、ご本人らしい生活が出来る様家族と共に考え、相談できる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	春には入居者様地元で馴染みのあるお寺に桜見学に行ったりするなど、少しずつ外出の機会を増やしていった。今後、改めて地域資源の見直しを行い、出来るだけ入居者様になじみの深い場所や人とのつながりを持てるようにしたい。	コロナが終焉しつつあるので、家族だけでなく、友達の訪問も増えた。通院の際に、少し遠回りをして、桜の花を見に行ったり、家の近所の馴染みの場所を通ったりしている。施設前の防波堤へ出掛けたり、さくらんぼの木を見たりして過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士、近くの席に座って頂いて利用者さん同士が会話を楽しんだり、職員が常に利用者様とのコミュニケーションを心掛け、良好な関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、そのご家族に会えば状況をお聞きしている。他の施設等に入居が決まった場合はご本人の情報を詳しく伝え、その後も必要に応じて連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との日常の会話やご家族との話し合いで利用者様の希望を出来るだけ聞くよう心掛けています。意思疎通が困難な利用者様に対しては顔色や表情を観察し、思いを理解する様努めている。	職員会議や申し送り時に、意見交換をしている。おやつの際に、コーヒーが飲みたいとの要望があり、コーヒーとフレンチトーストを提供したら喜んで頂けた。利用者からの聞き取りでは、「この施設は居心地がいいです」との声が聞けた。入居してすぐの方には、家族の意見も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から自宅での生活状況を詳しく伺い、これまでの環境と出来るだけ変わらないように使い慣れた馴染みの家具や生活用品を持ってきて頂くなどし、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室でテレビを観たい方や食後は居室で休みたい方など、個々に応じて生活が出来る様に配慮している。また、一人ひとりの状態に変化があれば看護師に細かく伝え職員間でも共有し、職場全体で状態が把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い、ご本人やご家族の意向を元に現状のニーズに合った介護計画を作成している。利用者様の状況に変化があった場合はその都度見直しを行い変更している。	介護計画は、何もなければ3ヶ月毎に見直している。目標は短期3ヶ月、長期6ヶ月とし、生活の中で解決すべき課題を明確にして、プランを作成している。モニタリングも3ヶ月に1回実施している。生活の様子を細かく把握することで、よりよい介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態の変化や気づきには個別の介護記録に記入し、職員全体が共有している。毎日の申し送りや連絡ノートを活用し、情報の共有を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて対応できるよう、カンファレンスや朝の申し送り時のミーティングなどの機会に支援方法について話し合い、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で中止になっているが、音楽療法や子ども園の園児の慰問、二ヶ月に一度地元のボランティアの方とのカラオケ交流会など一緒に行っている。商工会のイベントやふるさと祭りなど、希望に応じて参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は近くにあり、緊急時にはすぐに受診できる体制である。希望があれば今まで受診していた医療機関を受診している。必要時には家族様と同行してもらい付き添いをしてもらっている。 (※ カッコ内注釈削除)	かかりつけ医は、定期受診をしている。緊急時には24時間対応して頂け、看護師が近隣に住んでいるので素早い対応が出来ている。元のかかりつけ医を受診している方もいる。基本は職員対応だが、家族が連れて行く場合もある。歯科は、必要時に対応して頂ける。医療連携加算を取ったことで、手厚い医療が受けられるようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員に毎朝バイタル状況や体調の変化を伝え、体調管理を行っている。体調の変化や状態が悪くなった時は看護師に相談して指示を仰ぎ、共に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者様について出来るだけ詳細なサマリーを作成して情報を伝え、ご家族や病院関係者と連絡を取り合い退院に向けての計画を相談しながら退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合など、緊急時の対応や延命に関しての意思確認をDNARプロトコルに則ってご家族に提出して頂いている。終末期には出来る限りのケアを続けられるよう、ご家族や医療関係者に協力を得ながら対応している。	最終的には特養や入院される方がほとんどだが、本人・家族と相談した上で、施設でできる範囲で看取りを実施している。以前は、「急変時における延命等の意思確認書及び同意書」にて確認をしていたが、現在は、緊急時の対応や延命に関しての意思をDNARプロトコルにて確認し、同意書にサインをして頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、常時確認できる場所に掲示したり、介護記録にも綴じて的確に対応できるようにしている。近々救急救命の講習会に参加の予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しており、年に1回は消防立ち合いにて訓練を行っている。今年の訓練では外国人技能実習生にメインで動いてもらった。訓練後は反省会にて話し合い、職員間に周知徹底するようにしている。	夜間想定で消防の立ち合いの下、火災訓練を実施。外国人技能実習生を中心に訓練を実施した。管理者が課題や反省点を確認して、まとめたものを台所に貼ることで、意識付けができています。避難経路は廊下、ハザードマップは台所、緊急連絡網はリビングと事務所に掲示している。備蓄は、併設する施設で3～4日分を一括管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人権やプライバシーを尊重し、言葉遣いも丁寧に配慮できるように心掛け努力している。	呼称は苗字に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る際には、ノックをしたり、そっと様子を見てから入室するようにしている。排泄失敗時には、さりげない対応で、バスタオルを掛けることで自尊心を傷つけないようにしている。言葉遣いも馴れ馴れしくならないように気を付けている。	プライバシーや尊厳について、さらに学びを深めてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は毎朝一人ひとりに挨拶と声掛けをし、積極的にコミュニケーションを図ることで利用者様の思いや希望を把握し、ご本人の希望や思いに沿ったケアが出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの性格や生活のリズムを大切にし、個々に合った生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部の方はご自分の好きな服装選びをされるので、そのお手伝いをしている。ご自分でできない方は職員が季節に合った服装を選んでいく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや机拭き、食器拭きなど自分の役割としてできる事はお手伝いして頂いている。毎月のおやつ作りも利用者様が中心となり手作りのおやつを作ってみんなで食べる時間を設けている。	食事は3食手作り。評価当日の食事は、会話が盛り上がり楽しい雰囲気です。毎月、ユニット合同でおやつ作りを開催していて、どら焼きやカップケーキを作った。夏には、素麺やうなぎが好評だった。できる方には、下ごしらえや食器拭きを手伝って頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめに水分補給をして頂くよう声掛けをしている。食事もミキサー食や刻み食など一人ひとりに合った食事形態で提供している。また、毎食の食事量を記録し状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや義歯洗浄を行っている。自立されている方が多いが、出来ない部分は職員が介助し、夜間は義歯を外して消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合わせた介助を行っている。介護度が高い方には定期的にパット交換を行い、清潔保持を心掛けている。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。排泄パターンは介護記録に記入しているので、スムーズな誘導ができています。夜間のみ、おむつで過ごしていた方が、リハビリに改善された事例もある。布パンツで過ごしている方も数名いる。排泄失敗時には、「ちょっと確認させて下さい」とさりげなく声をかけ、自尊心を傷つけないようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や運動レクリエーションを取り入れ、便秘予防を行っている。便秘気味の利用者様には医師と相談し下剤を服用してもらい、状態に合わせて薬の調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状態に合わせた入浴方法でゆっくりと入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	週2～3回の提供で、湯船に浸かる方が約半数。リフト浴も可能で、入浴中には昔話に花を咲かせることもある。季節湯としてゆず湯の提供や気分を変えるため、入浴剤を使用することもある。流れ作業にならないように、入浴時間は平均30分程度取っている。同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ離床し、リビングで活動的に過ごして頂いている。一人ひとりの体調に合わせて食後などはゆっくりと横になって頂いたり、その方のペースに合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録や服薬中の薬の内容は一人ひとりのファイルに保管し、職員が確認できるようにしている。症状の変化時は医師に報告、相談し変更がある時は職員全員が申し送りやファイルにて周知し、確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	電話連絡時やカンファレンス等で今までの自宅での生活の様子をお聞きし、一人ひとりに合った役割を持ち、家事などに参加して頂く事で張り合いのある生活を遅れる様、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所を散歩したりドライブに出かけたり、年に一度は遠足を企画し外食を楽しむ等、楽しい外出ができる様支援しているが、コロナ禍の影響でほとんど外出が出来ていなかった。現在はコロナの5類移行に伴い、少しずつ外出の機会が増えてきている。。	馴染みあるお寺に桜を見に行ったり、通院の際に、少し遠回りをして、家の近所を通ったりしている。秋には、寒霞渓への紅葉を企画している。廃校になった学校で開催される、こいのぼりの飾りつけを見に行った。毎日のDVDを観ながら体操をすることで、ADL機能の維持・向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	まだコロナの影響もあり出来ていないが、ご自分でお金の管理が出来る方は少人数ですが買い物などの時に好きな物を買って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があればご家族に電話したり、ご家族から電話があれば取り次ぐようにしている。手紙や持ち物が届いたら直接お渡しするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングなどに季節に応じた模様替えをしたり居心地よく生活して頂けるよう毎日こまめに掃除を行い、清潔感のある空間にしている。	リビングには季節に応じたタペストリーや、利用者の笑顔の写真が飾られている。リビングでは、新聞を読んだり、パズルを楽しむ利用者もいる。廊下は広く、利用者が作成した絵手紙や、刺し子の作品が飾られている。窓からは瀬戸内の海が見え、施設の前にはオリーブ園が広がり、自然豊かな環境となっている。近くにあるさくらんぼを、取りに行ったりすることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う利用者様同士テーブルを囲みレクに参加したり話をしたり、思い思いに過ごせるよう工夫している。	タ	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ自宅で使っていた馴染みのあるものを持ってきていただき、入居後の生活の状態職員やご家族で相談し、現状に合った環境を整え、居心地よく過ごして頂けるよう支援している。	備え付けは、エアコン、時計、タンス。居室は広くて明るく、清潔な空間となっている。施設から誕生日にプレゼントされた写真付きのカードや家族の写真、利用者の作成した塗り絵が飾られていた。テレビを観て寛いだり、クロスワードパズルをしたりして過ごしている。携帯電話で家族との会話を楽しむ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室は大きく分かるように表示し、出来る限り自立して過ごせるよう環境を整え、リビングや居室には不要な物を置かない様危険防止に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				